

2000

起こった事・発行した本など

平成12年
・6月頃、フリーランスで集まる会合があり、木村と滝沢が二次会で意気投合。何か一緒につくろうと話す。赤坂もその企てに合流。その後、大関、水野も参加。

2001

平成13年
・ランチと称してしょっちゅう企画会議。
・「タウンネットワーク・クラブ」結成。当初はカメラマンも含め7名の集まりだった。「村木町瓦版」を発行。

2002

平成14年
・豆腐をテーマにした本の発行を画策するが、没に。木村、第二子出産。

2003

平成15年
・団体名を「いわて発まの編集室」とし、岩手県庁で登録。NPOマネジメント研修の仕切り、パンフ制作を請け負い資金を得る。春に赤坂が、秋に水野が第二子出産。妊娠はうつらしい。

2004

平成16年
・乳飲み子を抱えながらも企画会議。木村、印刷会社の仕事でカメラマン奥山淳志さんと出会う。「てくり」制作を始める。

2005

平成17年
・5月、「てくり」創刊。団体名から「いわて発」をとる。初版千部。一ヵ月後に千部増刷。最終的にさらに千部増刷。売り上げを元に、11月、2号目を発行。以降、年2回発行。
・南里荘にて発行記念トークイベント開催。奥山さんが「アップカフェ」にて初の写真展開催。
・定期購読希望者のために「てくりの会」をつくる。ポストカードのイラストをオガサワラユウダイさんに依頼。以後継続。

2006

平成18年
・3月、「いわてNPOセンター」発行の両替地域情報誌「あがらい」の制作を行う。
・盛岡を度々訪れていた文筆家の木村衣有子さんと出会う。5号に立原道造について書いて書いてもつこうと。

2007

平成19年
・誰かホームページ作りとか手伝ってくれないかなあ……とブログに悩んでいたところ、高橋友恵さんがうっかり手を挙げる。以後、スーパー助っ人に！
・木村、当時アノニマススタジオにいた編集者の丹治史彦さんから依頼を受け、安部智穂さんの本をデザインする。ここから智穂さんのおつきあいが始まる。
・10月、「フレンチとホームズ」を楽しむ会」をベルワールにて開催。2号の中村工房さんと「コマボマブラー」をつくる。6号発行。

2008

平成20年
・6月、「ブックカフェてくり」を岩井沢家ギャラリーにて開催。当日朝岩手宮城内陸地震が発生したが盛況に終わる。同イベントにて、福田パンとのコラボバック限定販売。智穂さんの「森の暮らしたいまぐら便り」アノニマススタジオ刊が発行となり販売する。
・「てくりモリオカ散歩地図」発行、無料配布。
・8月、「デザイン物産展ニッポン」が松屋銀座にて開催。本十デザイン」の項目で若手代表となり、7号が展示される。

2009

平成21年
・4月よりラヂオもりおかにて「てくりプレゼンツ ほほほラヂオ」放送開始。パーソナリティーは大関（現在育児中）。
・「てくりモリオカ散歩地図 増強版」発行、無料配布。
・9月、「てくり別冊 いわてのうるし」発行。関連イベントとして家具屋のホルツさんをお借りして展示販売会。このての展「開催。型染めの小田中さんにオリジナル手ぬぐいをつくってもらった。11月、智穂さんの料理を楽しむ「町家てほんの会」開催。
・10月、「LIP まちの編集室」となる。

2010

平成22年
・2月、イベント「ひつじの時間」開催。
・3月、盛岡ブランド推進室より冊子「盛岡若者ものがたり」の制作を受託。2013年には「盛岡若者ものがたり」として改訂版制作。
・4月、「てくり別冊 いわてのうるし」発行。関連イベントとして、5月「機屋さんの珈琲講座」、9月「盛岡の喫茶店の写真展」、奥山淳志×木村衣有子「編者書く」トークセッション」開催。
・11月、「ブックレット2 北の服」発行。仕事仲間だった菊池美帆さんが「spread space」ひめくじ」オープン。

2011

平成23年
・1月、12号の発行記念イベントとして「佑子さんと一緒に」利き酒会開催。
・3月の震災を受け、すべての仕事が止まる。取材中だった13号の内容を変更せねばならなくなり、発行が大幅に遅れる。
・5月、「ブックイベント モリプロ」開催。以後、毎年5月に開催。
・9月、「ブックレット3 森の食卓 たいまぐらのおやつ」発行。

2012

平成24年
・1月、15号発行記念イベント「新年百年写真館」を、唐たけし写場にて開催。
・10月、岩手県農林水産部競馬改革推進室のパンフレット「馬と人の取材・編集・デザインを請け負う」発行。関連イベントとして「11月、「てくり別冊 いわてのうるし」発行。関連イベントとして「いわてのうるし展」を「ひめくじ」の他、東京の三鷹と吉祥寺でも開催。塗師の田代淳さんと共に「まるんといわて椀」を製作、販売。
・岩手県商工労働観光部産業経済交流課より、「PR版 いわてのうるし」リーフレット作成を請け負う。

2013

平成25年
・5月、モリプロにあわせ、もりおか啄木・賢治青春館にて「てくり展」開催。
・取材のため奥内の山に登りまくる。8月、17号発行。東京オリビック開催決定の第一報を聞いたのも岩手山の8合目小屋だった。
・9月、「ブックレット4 森の食卓 たいまぐらのおやつ」発行。

2014

平成26年
・3月、渋谷ヒカリエにて「文化誌が街の意識を変える展」に岩手代表表として参加。木村と編集者の丹治さんがトークイベントを行う。
・5月、「てくり別冊 光原社 北の美意識」発行。
・6月、「ブックレット5 盛岡の喫茶店 おかわり」発行。ななっくと共に「てくりモリオカ散歩地図 改訂版」発行無料配布。ななっくサイトにも「コマボコンテンツ」作成。

2015

平成27年
・3月、濱田淑子さんより制作依頼を受け「花沢銚介を読む1」を発行。
・大阪のメヒック扇町にて開催された「地域メディアを語る」トークセッションに木村が参加。
・5月、創刊10周年。

関連印刷物いろいろ

世間での事



・6月、大規模小売店舗立地法施行

・8月、イオン盛岡ショッピングセンターオープン

・11月、ダイエー盛岡店閉店

・9月、イオン盛岡南ショッピングセンターオープン。
12月、MOSビルオープン

・4月、NHK朝の連ドラ「こんと晴れ」スタート。6月、さんざん太鼓キネズ挑戦

・6月、岩手宮城内陸沖地震。9月、リーマン・ブラザーズ破たん（リーマン・ショック）

・10月、クロスステラス盛岡オープン

・12月、東北新幹線新青森開業

・3月、東日本大震災
・6月、平泉が世界遺産登録

・4月、NHK朝の連ドラ「あまちゃん」スタート。

・消費税8%スタート

軌跡

「創刊のきっかけは？」
よく聞かれる質問です。もちろんすべてではないですが、年表にまとめてみました。

「女性ばかりでよく続いていますね」というのもよく聞かれる事だ。何でなんだらう？ とその都度考えるのだが、たぶん私たちにあんまり「こだわり」が無いからなんじゃないだろうか。「どうでもいい」ということではない。「こうでなくては許されない」という事が少ないのだ。「こうでもいいけど、それもありだね」という感じ。3人のうち2人が賛成すればその案が通る、という塩梅。たぶん、普段の仕事でも編集モノは多くの人が関わるのが常だ。エゴを通すよりも、良いものを作る事を優先する。という意識がベースにはある。

さらにはスタッフ全員子持ちなので、「諦める」ということが悲しいかな身に付いている。何かトラブルがあっても、嵐が過ぎればそのうちなんとかなるさ、と割と楽天的なのも幸いしている。そういえば、ライターのはやしみかさんが「てくりはオフビートなのが良いとこ」と評してくださったことがあったが、確かにちょっとはずれた場所を好んで歩く私たち。言い得て妙である。

